
光のpiece

二瓶環奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

光のpiece

【Nコード】

N7615U

【作者名】

二瓶環奈

【あらすじ】

両親の死をきっかけに

一人家を出た

16歳の少女彩日。
アサヒ

彩日は両親の生まれた地へ向かい、

『アトリエ・SO・U』

に住む人達に出会う。

【緑の部屋】の住人。

アトリエ・SO・Uのオーナー。亡くした恋人を想い続ける画家、
ソウジ
壮司。

【白の部屋】の住人。

ある事件記憶を失った少年、
カイ
帆。

【青の部屋】の住人。

片足のない青年、
ワタル
理。

【赤の部屋】の住人。

壮司の同級生、雑貨店の店主。現在旅行中の、
りか。

ちぐはぐな人びと。

でもあたたかい日常。

この日常を失いたくないと思いつながらも、りかの帰宅を境に、日常
がほころび始めていく……。

1 『ちよつとそこまで』（前書き）

目に留めていただいております！

基本ほのぼのを書いていきたいと思ひます。

未熟さいっぱいのお話ですがお付き合いいただければ嬉しいです。

1 『ちよつとそこまで』

声が聞こえる。

そう思ったのと同時に瞼の裏が真っ白になった。バスに揺られているうちに眠っていたらしい。

さっきの声は夢だったのだろうか。

いつの間にか乗客は私一人になっていた。

歩道にも歩いている人は見受けられない。

膝に置いていた携帯の画面を見ると、着信が何件も入っていた。

確認すると、どれも同一人物からのものだった。予想ができていたことだったので、私はそれに応えることなく携帯の電源を切ってバッグにしまった。

眩しさに目を細めながら窓の外を見ると白い砂浜の先に海が見えた。荒く高い波が岸に打ち寄せている。

「ここが二人の育った場所かあ……」

そう呟き窓に額をつけ、私はまたゆっくりと瞼を閉じた。

1 『ちよつとそこまで』(後書き)

これからゆつくり更新かと思いますがお付き合いお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7615u/>

光のpiece

2011年10月9日08時12分発行